



行田市民大学 広報たより

2025年
(令和7年)
12月1日発行
広報部



行田市民大学
ホームページ
QRコード

令和7年度1・2学年合同講義

第3回講座 5月22日ものづくり大学

「『埼玉学』のすすめ」

ものづくり大学教養教育センター井坂康志教授を講師に迎えて1・2学年合同講義が開催された。埼玉、行田にスポットを当てた内容だった。埼玉学とは、新しい知のあり方である。埼玉は外から見ると魅力的な所、独特なアイデンティティを持っている。



講師の井坂康志教授

あなたは埼玉を本当に知っていますか。埼玉県はお芋の形、埼玉のポーズ、シラコバトは平和の象徴、埼玉県北側の持つ底力、渋沢栄一・荻野吟子・塙保己一の三偉人、接している県は7県、戦後の県知事は7人、自治体数は63、県内の国宝。特に埼玉学でのポイントとは渋沢栄一、映画「翔んで埼玉」の二つを挙げた。埼玉学でも過去のことから未来への根拠を見出した。「『だ・さいたま』、特徴の

ない県、と卑下しないでアイデンティティ(自分らしさ)を持ちましょう」と講義した。

「ノーベル平和賞への道のり」

第4回講座 6月5日ものづくり大学

父の実家である長崎で被爆し、日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)事務局次長・埼玉県原爆被害者協議会(しらさぎ会)事務局次長の濱中紀子さんは、2024年12月10日のノーベル平和賞授賞式(ノルウェー・オスロ)に日本被団協代表団の一員として参加した。濱中紀子さんを講師に迎えて日本被団協ノーベル平和賞授賞記念講演「ノーベル平和賞への道のり」が行われた。

今村武蔵理事長は「行田市民大学の1期生です。歴史文化グループで研究の成果を2冊にまとめ自費出版され、市民大学運営委員を11年間、現在子ども大学支援部で活躍されている。」と濱中さんを紹介した。



講義風景



講師の濱中紀子さん

「街中にノーベル平和賞の垂れ幕が掲げられ、折り鶴が

行田検定

「のぼうの城」の映画化をきっかけに成田家の城主成田氏長や、その家臣である酒巻鞆負、甲斐姫といった武将をモデルに、町おこしとして結成され、大活躍している「おもてなし甲冑隊」があります。



オスロ市内風景

飾られていた。」とオスロ市内の様子を紹介した。また、短い滞在中、オスロ美術館でノルウェーの代表画家E・ムンクの「叫び」を見る念願が叶ったとのこと。

日本被団協の田中熙巳代表委員の授賞挨拶で「いつ、加害者、被害者になるとも限らない」、「核兵器との共存は有り得ない」と言った言葉が心に残った。

ノーベル財団が販売する「ノーベルメダル型チョコレート」を持つ濱中紀子さんの素敵な笑顔と貴重な経験談が印象的であった。

例題 この甲冑隊の名称はどれですか。

ア 忍城おもてなし甲冑隊
イ 行田おもてなし甲冑隊
ウ 埼玉おもてなし甲冑隊
答は本紙裏面にあります。また、HPには他の問題と解答の説明もあります。

「共に学ぶ仲間に出会えること」は、うれしいことです

行田市民大学の活動



行田市民大学
Facebook
ご覧ください

令和7年度「子ども大学ぎょうだ」

放課後子ども教室(わくわくクラブ)

令和7年度「子ども大学ぎょうだ」
7月5日～9月6日で5日間開催

「ものづくり大学」「行田市民大学」「行田市教育委員会」で組織した「子ども大学ぎょうだ実行委員会」は、小学3～6年生を対象に「子ども大学ぎょうだ」を開校している。

入学式は、7月5日のつくり大学で行われ、國分泰雄学長から激励のあいさつ、長島浩司教育委員会生涯学習部長の紹介、子ども大学生代表の児童からお礼の言葉と学習へ向けての決意表明があった。



8月2日の講義は、ふるさと学「行田は水の始発駅」。講師は行田市民大学理事長の今村武蔵氏、利根大堰(とねおおぜき)は、巨大「水のターミナル駅」の話に子どもたちは真剣に興味深く講義を聞いていた。

修了式は、9月6日のつくり大学で行われ、子どもたちは、自作の角帽を被り、國分泰雄学長から、修了証書が渡された。最後に、子ども大学生代表の児童からお礼の言葉で締めくくった。

わくわくクラブの活動

わくわくクラブは、行田市教育委員会の放課後子ども教室を支援する事業として実施されている。
行田市民大学の卒業生は、北小学校等で、運営スタッフとして活躍。



パソコン講習会開催

8月23日(土)24日(日)の2日間、市民大学学生のためのパソコン講習会を「みらい」パソコン教室で行った。学生の意欲・スキル向上や市民大学ホームページに積極的に投稿できることが目的で、午前の部、午後の部、終日の部から選択でき、携帯電話利用者が多いため、昨年よりスマートフォンからの投稿の方法も学んでいる。

講師は、原口副理事長、水出広報部長、大美賀講師、広報部員全員がサポート。



講習内容は、パソコンの基礎、ネット検索、写真の貼り付け、アイキャッチ画像等。各自自分のIDをもらい、ワクワク目を輝かせながら旅の思い出や、趣味の写真、学んだ歴史文化等を投稿。投稿は世界中に発信され、写真撮影もプライバシーの保護を考慮して行なった。投稿者の行動場所が分からないように投稿を工夫。



最後に全員の投稿をスクリーンで視聴、大いに盛り上がり、作品の講評などとして楽しんだ。

行田検定 答え

編集後記
「埼玉学」などの新しい分野の講座が増え、在校生は熱心に学んでいます。パソコン講習会後の投稿も増えました。私達も講座の取材や広報誌作成を新たな気持ちでがんばります。

編集委員

原口廣之 茂木幸蔵 大美賀芳 田島実
伊藤伸予 井上文和 水出みよ子